

災害を乗り越えて ふるさとの今がある

いせわんたいふう 伊勢湾台風

「伊勢湾台風」は上陸時、日本では史上3番目に気圧が低い929.2hpa(ヘクトパスカル)を観測した超大型の台風で、室戸台風、枕崎台風と並ぶ昭和の3大台風といわれています。

1959(昭和34)年9月26日の夜に上陸した「伊勢湾台風」による高潮のため、木曽岬村(当時)の南半分の堤防は寸断され、死者328名、家屋流出171戸、全壊95戸などの今まで経験したことのない大きな被害を受けました。木曽岬町内には、現在もたくさんの慰靈碑が残っています。

台風によって学校も損傷を受け、12月に仮復旧するまでの間、小中学生は三重県鈴鹿市内の鈴峰荘という施設で、教師とともに寄宿生活を送りながら勉強しました。親と離れての生活はとても寂しいものだったそうです。

被害からの復旧のために、たくさんの人々が天秤棒を担いだり、トロッコを押したりして、作業をしました。しかし、台風による塩害で、その後何年も田畠が不作となるなど多くの苦労がありました。



当時の伊勢湾台風の様子(木曽岬町提供)

学習のめあて

伊勢湾台風は、私たちの郷土三重県を襲った未曾有の自然災害です。この台風は、発生から上陸までの期間が6日間と短く、発達したまま上陸しました。暴風圈が非常に広く、東西に伸びた停滞前線が刺激され大雨をもたらしました。また、上陸後も強い勢力を維持したことによる風の被害や、さらには伊勢湾に高潮を発生させる最悪のコースを通ったことも重なって、被害が一層大きくなりました。

今までに例のない大きな被害をもたらすことになった伊勢湾台風の被害の甚大さや、復旧へ向けた人々の苦労の様子、そして、郷土の人々が多くの尊い生命や貴重な財産を失った悲しみや絶望を乗り越えて、どのような思いで今日の暮らしの礎を築いたかなどについて考えてみましょう。

考えてみよう

- 1 伊勢湾台風はどのような被害をもたらしたのでしょうか。
 - 2 当時の写真、被災された方々の話や作文等から、どのようなことを感じましたか。
 - 3 伊勢湾台風の後、人々はどのような思いで復旧工事にあたったのでしょうか。
 - 4 切れた堤防を締め切る工事を、一ヶ月もかからずに終えることができたのは、なぜでしょうか。
 - 5 悲しみや絶望を乗り越え、郷土を復興させた人々の姿から学んだことを話し合いましょう。
 - 6 三重県を襲ったその他の災害について調べ、その当時の体験をもつ家族や地域の方々に話を聞いてみましょう。
- ☆ 第1部の「ここが私のふるさと(P120~123)」を活用し、自分たちのふるさとのよさや、ふるさとのために自分自身ができることについて考えてみましょう。

伊勢湾台風を体験した人の話

私の家は台風までは本当に幸せな家庭でした。7つの女の子と7ヶ月の男の子と私と主人と65歳のおじいちゃんとおばあちゃんが61歳でした。…略…（伊勢湾台風が上陸した）26日の朝はすごく雨が降っていました、私たちはお父さん（おじいちゃん）と田んぼの稻をあげたりして始末していましたが、主人は消防で朝からいません。…略…「外はちょっと明るいけど」と言って戸締りをしました。そしたら「6時頃に夕飯を食べよう。えらなるで」と言って、私は7つの子を負んでおばあちゃんは7ヶ月の男の子を、そしておじいちゃんは畳をあげておりましたけども、6時半頃になつたらダバダバと畳がいうようになって、お父さん（おじいちゃん）は「こんな大きな家が倒れたら、木曽岬中の家がないぞ」と言われました。

それで避難することなんかちっとも考えておらず、そしたらそのうちに畳が浮くもんで、おばあちゃんは「2階に上がり」と言われて私も上がってきました。そしたら、おじいちゃんが「俺は仏さんを取りに行く」と言って、そこで私たちは携帯ラジオとろうそくをもって上がりました。

間もなくするとおじいちゃんが「俺は死んだぞー」と言ったので、おばあちゃんが「死んだんー？」って言ったんです。その時はまだ8時には、なってませんでした。7時40分頃でしたかね。「ガタッ」という音がしたと思ったら私たちはもう海の中でした。その時、おばあちゃんが「おーい、ここは海だぞー。海だぞー。」って言うのだけど、そのうち大きな波がザザーっとやってきておばあちゃんは「ゆきさーん、ゆきさーん」と言ってそのまま亡くなつたというか、沈んでいったんです。…略…そのうち大きな波が来てザバーっと頭の上にかぶつて、それを2、3回繰り返しました。そしたら負んでいた子がいなくなつたので「けい子ー、けい子ー」と叫びましたけど、声も何にもなく、…略…そのうちに大きな流木が「ガーン！」と当りました。それで気を失っていました。

…略…私たちは私と主人だけになりましたけど、今思うとあんな怖いことはなかなか忘れる事はできません。そして、子どもとも別れ、お舅さん（おじいちゃん）たちとも別れ、本当に泣くだけが私の仕事でした。

被災直後の小学生代表の作文

『台風の翌日』

【小学校6年 女子】

…略…父母を見ているとかなしくなつて庭へ出ようと思ったが、流木でうずまっていた。母が、「とおちゃん、情けのうなってきたな。」と言われた。父はだまっていて仕事にも手がつかなかつたらしい。母は手で顔をおおつてただ子供のように泣いておられるばかり、私はそんな父母を見るのが何よりも一番つらく思えた。庭に流れてきた流木をかたづけなければいけないと思うと、生きているのがいやになつてきた。さかなの死んだのやら、人間の死んだのが、私達のこまつているのを見てなぜかわらっているようなきがした。

『ひなん所での生活』

【小学校4年 女子】

台風があつてちょうど一週間たちました。ある日、よその村へひなんすることになりました。私はいきたくなかったけれど、勉強におくれるからしかたがなく行った所が、どこだかわかりません。それはひろいお寺でした。バスガールさんが、「ここは高田本山ですよ。」とおしえてくださいました。おばあさんたちは、「なん日ぶりか、ほとけさまをおがむのは。」と、なみだをだしてよろこびました。…略…うれしい毎日、悲しい毎日をすごして、お寺となれたころは、2週間たつたころでした。その日、はんちょうさんが、「ここではなにかとふじゅうですから、鈴峰荘にうつります。そこではめんかいができません。」とおしえてくださいました。おばあさんとはなれるのはいやです。父、母とわかっているのもいやですが、どうしようもありません。その夜は、とてもかなしくて、ねようともしませんでした。

復旧のようすについて（国土交通省の方の話）

…略…まず、切れた堤防を締め切る工事を始めた。10月8日から工事にかかり、順番に締め切り、…略…終わったのが11月9日。水浸しになり、人が大勢亡くなり、それだけでなく家も壊れ、田畠もなくなり、人が住める状況ではなくなつた。…略…当時の父さん、母さんは、早く堤防を締め切つて元の状態にもどりたい、別に住んでいる子どもと一緒に住めるようにしたいというもののすごく強い気持ちがあった。…略…国や県、町が一生懸命がんばつて締め切り工事をやつた。そのため一ヶ月もかかる間に、締め切り工事を終わることができた。…略…



海岸堤防復旧工事のようす（当時撮影）

出典：「伊勢湾台風から50年 昭和34年9月26日（1959年）」（木曽岬町、木曽岬町教育委員会）